



だより



R6.5.7 Vol.5

この辺だけですから…

4月の下旬、交通安全教室を開きました。警察署の方、交通安全協会の方にご協力いただきました。ただ、当日は雨がぱらつく天気で運動場も緩い状況でした。

無事、外での活動が終わり、子供たちが教室に上がった後、運動場を見ると、何人かの方が運動場にできた轍をならしていました。「あ！あとで学校でやりますから。…雨も落ちているので、もうかまいませんよ。」と声をかけると「ええ、ちょっとだけ、この辺だけですから…。大丈夫ですよ。」と作業を続けられました。室内での活動がまだ続いており、私はそっちに行ったのですが、全ての活動が終わって運動場に戻ると、きれいに整地されていました。「この辺だけですから…。」そう言ってまず動く人間に私もなりたい。そんな子供を育てたい。そう思います。

いかがでしたか？大型連休！

5月の大型連休もとりあえず、終わりましたが、いかがでしたか？子供たちは楽しい休日をすごすことができたでしょうか？

さてこの大型連休、ゴールデンウィークという言い方が一般的ですね。最近では、その言い方が控えられる傾向もあるようです。いくつか理由があるようですが、そのひとつに「休めない人への配慮」があるのだとか。

様々な人への配慮は必要ですが、何か少し言葉狩りのような匂いもします。言葉に敏感になることはその奥に潜む差別意識に気づいたり、取り除いたりする上でとても大切なことです。が、あまりやりすぎると、お互いが思うように会話できないという窮屈な状況を生んでしまいます。重箱の隅をつついたり、揚げ足をとったりするのではなく、目の前にいる人（友達）の気持ちを考えながら言葉を発する。それが大事ではないかと思います。

四方山話真穴 ver. 其の五(捨てられる教師)

げっ！物騒なサブタイトルですね。「**捨てられる教師**」ある会合で紹介された書籍のタイトルです。定年まではしばらく時間があります。まだ捨てられたくないので読んでみました。「ICTが日進月歩で進化し、それが教育現場でもどんどん活用されている昨今、教師としてのあなたのその価値観！**オワコン**ではありませんか？」そんなことを問いかけてくる、とても興味深い内容でした。「それ！わかるう！なるほどお！」と大きくうなずきながら読んだページもありました。「いやあ、それはちょっとどうなの？」と疑問に感じたページもありました。「そこまで教育現場は遅れているわけではない！教師も変わろうと努力している！」と若干の憤りを感じたページもありました。あっという間に読み終わりました。物事に対して「それはなぜ？」「どうしてそうなるの？」と問いかけ、それについての自分なりの答えを見つける、そういう子供を育成することがこれからの時代、重要になってくるのではないかとそういう投げかけがあったように思います。心に残った言葉をひとつ！

「いくらデジタルツールが進化しようとも児童の心と向き合うことは人間の教師にしかできないのです。」2号で「いくらデジタル化が進もうが人間の本質はアナログである。」と書いた私の思いにも通じる気がして、少し嬉しくなりました。

2023年は著者によると「AI教育元年」だったそうです。なるほど、ChatGPT に代表される生成AIが世間をにぎわした年でもありましたね。「AIが読書感想文を書いてくれる！」そんな話が飛び交い、教育現場でも大きな話題になりました。その使用については文科省から指針が出るほど、賛否が渦巻いています。しかし何事も「**ものは試し**」です。早速、インストールして話しかけてみました。「なんでそんなに生成AIは人気なの？(私)」『人間らしい回答ができるからです。(AI)』『人間らしいって？』『感情を理解するなど、以下の何点か(省略)から人間らしいと言えます。』『人間より賢いの？』『凌駕する部分はありますがそんなことはありません。』『こんなこと聞いている僕をどう思う？』『探求心があって素晴らしいです。』『ありがとう！これからもよろしく』『どういたしまして！一緒に探求し、学びあいましょう』 AIにすっかり気分をよくしてもらいました(笑)使い込めば、有能な壁打ち相手になってくれそうです。詳しくはまたいつかの機会に…。